峡南教育事務所・峡南地域教育情報紙　　第１２５号　（２０１４年１・２月）

# かけはし

発行：峡南教育事務所地域教育支援担当　　所在地：南巨摩郡富士川町鰍沢 771-2
TEL　：０５５６－２２－８１５４　　FAX　：０５５６－２２－８１４４
HP でもご覧になれます　☞　URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html

## 平成25年度 峡南地区「学力向上の集い」開催

山梨県教育委員会では、本県の児童・生徒の現状と学力向上の取り組みを広く知らせるとともに、家庭教育に対する保護者の悩みや相談に応じながら保護者の認識を深めることにより、家庭教育の充実を図ることを目的に、１月から２月にかけて県下の五つの地域で、「学力向上の集い」を開催しています。

このうち峡南地区では、１月29日に身延町総合文化会館において、「子供たちの未来を育む家庭教育」をテーマとして、管内の小・中学校の保護者・教職員94人が参加して行われました。

当日は、北杜市にある「えほん村」の館長である、絵本作家・画家の松村雅子氏を講師として、また山梨大学教職大学院客員教授の中沢勇三氏をパネリストとして迎え、県教育委員会義務教育課の齊藤功指導主事が進行役となって、座談会形式で進められました。

まず齊藤指導主事が、子供たちのよりよい成長のためには、家庭における生活・学習習慣の確立が重要であることを強調し、そのためには**「早寝早起き朝ごはん」「テレビやゲーム、携帯電話、パソコンの使い方」「遊びと読書が子供を成長させる」「家庭学習の充実が学力向上のカギ」**の４つの大切なポイントがあることを説明しました。

次に松村氏は、絵本作家としての経験談や海外生活の体験談をもとにした、人間形成において読書や造形活動が欠かせない大切なものであることを示すともに、「なぜ勉強が必要なのか？」という素朴な問いに関して、「子供たちにその目的を見つけさせることが重要だ」とする視点の必要性を強調しました。

さらに中澤氏は、ご自身の子育ての経験談を踏まえながら、子供への接し方として、毎日の様子をしっかり観察しながら、良いことはしっかりほめて、子どもの自己肯定感を伸ばすようにすること、また子供が話したいときにはしっかり話を聞いてあげられるような聞き上手になること、そうした親子関係を作り上げることが子どもの反抗期にも乗り越えられるようになる、そうした距離感を培ってほしいと力説しました。

講師ら二人の講話に続けて、全国学力学習状況調査に関する解説が行われ、この中で山梨県の成績の結果と具体的な出題状況が紹介されるとともに学校や家庭での学力向上への取組のヒントが示されました。さらにそれを支え、子どもの豊かな心を培うものとして、松村氏の絵本の朗読がありました。

子供たちに「確かな学力」を身に付けさせるために学校教育の果たす役割が大きいことは言うまでもありませんが、今回の集いでは、保護者や地域との連携を図った家庭教育や子どもの心の育成が欠かせないものとなっていることがあらためて示されました。学校と家庭が力を合わせ、生活・学習習慣の確立に努めていくための示唆に富んだ内容の集いとなりました。

### 「家庭学習」を支えるための5つのポイント

1　時間を大切にする意識を育てましょう
2　がんばりを認め、ほめて、励まして、やる気を育てましょう
3　勉強しやすい環境をつくりましょう
4　学校での様子に関心をもちましょう
5　将来の夢や職業について語り合いましょう

（県教育委員会義務教育課リーフレットから）

## 生きる力を育む素敵な交流会　園児のデイサービス訪問

富士川町立第一保育所

核家族化や少子化によって地域におけるつながりが希薄になるのに伴って、これまで家庭や地域で行われていた「世代を超えた交流」が失われつつあるとされています。こうした中で、新たな形でふれあう機会を取り戻そうと子どもたちと高齢者との交流プログラムが、各方面で実施されています。富士川町でも町内保育所の園児と「デイサービスセンター」を利用している高齢者が、例年12月から1月にかけて交流会を行いました。

見事なチアリーディングに大きな拍手が！

12月20日には、第一保育所の年長児29名と「富士川町増穂デイサービスセンター」を利用している高齢者との交流会が行われました。ふだん接することのない年齢同士が顔を合わせるということでお互いうち解けるにはある程度時間がかかるかと思われましたが、そこは人生の達人と元気なちびっこたち、そんな心配は一切無用でした。園児たちは、おじいちゃん・おばあちゃんに興味津々、おじいちゃん・おばあちゃんもそれぞれの孫ひ孫を思い出して園児たちのかわいさに笑顔いっぱい。会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。

今回の交流会では、はじめに園児たちは、日頃練習していた遊技を披露しました。軽快な音楽に合わせ、鳴子を持っての演技やチアーガールのように身体全体を使った元気いっぱいの踊りに、目を細めてる姿は、やさしいおじいちゃん・おばあちゃんそのもの。その後行われたふれあい体験でも、一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、園児に肩をたたいてもらったりと童心にかえりながら楽しい一時を過ごしました。最後におじいちゃん・おばあちゃんに園児から手作りのプレゼントが送られた後、おじいちゃん・おばあちゃんからもお返しのプレゼントがあり、一緒に「お正月の歌」を歌って、1時間あまりの交流会を終了しました。

園児は高齢者との交流を通し、いたわりや思いやりの心を育み、また、高齢者は園児からパワーを授かり、生き甲斐を見つけるなど、お互いに自然と生きる力の向上につながっていった素敵な交流会でした。

一緒の手遊びでは笑顔があふれました

## 夢のリニアと最新技術　鉄道総研講演会

南部中学校

中央新幹線に関して2011年に待望の報道発表がなされました。それによると2027年に東京－名古屋間の完成を目指すとともに甲府盆地の南部がそのルートになると決定したとのことです。中央新幹線はご存じのとおり最新の鉄道技術によってリニアモーターカーが採用されることになっています。

このリニア中央新幹線とその技術について、12月20日に南部中学校の2・3年生を対象として講演会が開かれました。ちょうど南部町議会で行われた講演会にともなって開催されたもので、鉄道総合技術研究所(東京都国分寺市)から前理事長及び研究部長を招いて、最新技術に関しての説明が行われました。

講演ではこれまでのリニア技術開発の歴史や山梨に設置された実験線の様子と、中央新幹線に導入されることになった経過、鉄道としての特徴やメリットの説明がありました。

また、鉄道だけでなく、リニアモーターカーにとって重要な技術である「超電導」についても基本的な原理が紹介され、その技術を利用したスマートグリッド(電力エネルギーを地域で効率的に利用する取組)などの研究の様子が示されました。

中央新幹線の予定ルート(山梨県のパンフレットから)

講演後には生徒から、「2020年に予定されている東京オリンピックに合わせて、開業が前倒しできないか」とか、「強い磁力が人体の健康に影響を与えるのではないか」といった興味深い質問が出されました。これに対して、技術的には十分完成しているけれども経済的な環境などの面から残念ながらオリンピックには間に合わないこと、すでにリニアモーターカーでは磁力による健康への影響がないことが確かめられていることなどが丁寧に説明されました。

## お月様がぼこぼこしている！すごい！見えた！

## 冬の月の観察会開催

富士川町教育委員会

「すご～い」「クレーターがきれい」「見えた！見えた！」、富士川町民会館駐車場は、次から次にと訪れる親子連れの歓声に包まれました。

富士川町教育委員会は、2月7日（金）の午後6時から2時間にわたって、「冬の月の観察会」をはじめて開催しました。昨年まで行っていた星を見る「親子天文教室」を変更したもので、町の担当者は「昨年は星を見たけれども、点にしか見えなくてあまり感動ができず、説明も星座の話に移ってしまった。今年観察するのは、何も説明しなくてもすぐにわかる月。見てすごいと感動できる観察会にしてみた。」と実施の意義を強調しました。この日は、ちょうど半月で月齢7.4の上弦の月（真昼に月がのぼり、真夜中にしずむ）になり、月面を天体望遠鏡で観察すると多数の円形の凹地を確認することができました。参加者は、担当者から配付された資料を片手に倍率32倍と64倍の天体望遠鏡を順番に覗き、はっきり見えるクレーターや月の表面を観察していました。参加した4歳の女の子は「今日は、かまぼこみたいな月だったけど、少し前は薄いお皿のような月だったんだよ。月がきれいに見えた。」と話してくれ、はしゃいで走り回っていました。

講師の大森正文さん（富士川町教委職員）は、子ども達の質問にわかりやすく答えたり、月が薄い雲の中に入ったときなどは、レンズを変えて見やすくするなど調整を繰り返したりしていました。また、今日の観察会のことを日記に書きたい！という小学生の女子は、月のことだけでなく望遠鏡や木星のことも詳しく教わっていました。

この晩は、厳しい寒さであったにもかかわらず50名以上の親子連れが参加しました。町の担当者が、誰でも気軽に立ち寄って月を見てほしいと考えたこの会には、通りかかった飛び入り参加者もいました。立ち寄って月を見たという女性の方は「月を見上げると別世界に行けるような感じになります。いつも見上げています。今夜はとてもきれいな月を見ることができました。ありがとうございました。」と感想をのべていました。保護者の中には、月の美しさに感動し興味を持った子どもを見て、「将来宇宙飛行士になるかもしれない」と期待をふくらませて語る方もいました。

講師の大森さんと望遠鏡を覗く子どもたち

## 平成25年度 山梨県社会教育研究大会 開催

12月17日、平成25年度山梨県社会教育研究大会(研究テーマ『人づくり・地域づくりのための社会教育委員の役割』)が甲斐市敷島総合文化会館で開催されました。県内から130名以上の参加者を迎えて行われたこの大会では、県内の社会教育委員、社会教育関係者が各地域における社会教育活動の実践や研究成果を発表し合い、社会教育・生涯学習の観点に立って社会教育をとりまく今日的な課題の解決を目指しての研究討議が行われました。当日は、青山学院大学教授の鈴木眞理（すずき　まこと）氏の講演と2地区の事例・研究成果の発表がありました。

鈴木眞理氏は、研究テーマと同じ演題で、「社会教育と生涯学習」「生涯学習社会といわれるもの」「社会教育行政の役割と特徴」「社会教育委員の位置・役割」について講演しました。

実践発表では、大月市「人づくり・地域づくり　～社会教育委員の取り組み～」のほか、市川三郷町による「ほうとうづくりはきずなづくり　～家庭・学校・地域の連携を目指して～」という発表が行われました。

市川三郷町の発表ではまず、町社会教育委員の椚謙一さんが、少子化を背景に高齢化・核家族化・共働き家族の増加による家庭を取り巻く環境の変化、情報化・グローバル化の進展による人々の生活スタイルや価値観の多様化等で、地域でも人と人の繋がりや連帯感、支え合いの意識の希薄化がもたらされていること、そうした中で社会教育委員として何ができ、何をすべきか、という視点で地域の教育力・資源を見つめ直していく必要性があることなどを説明し、社会教育委員の会議の活動内容などに関しての報告を行いました。

また、町社会教育委員の小林節子さんは、地域の繋がりと絆を育む社会教育の望ましいあり方について触れ、学校・家庭・地域が一体となって20年間にわたって行っている市川中学校での「ほうとうづくり」の実践報告を行いました。

参加者からは、「核家族化・高齢化・価値観の多様化の中で人との繋がりの土俵の上にあがれない人にいかにアプローチしていくのか」「格差社会が大きな問題、家庭・学校に居場所のない子ども達、教育・学習に関心のない子ども達が増えているのでは」「格差社会の中で、あいうえお（ありがとう・いいわねぇ・うれしいわ・え～えく驚き>・おかげさまで）の言葉がけを家庭や地域でしていくこと、言葉がなくても笑顔でふれあう大切さ」等の質問や意見が出ていました。まとめで講師の鈴木氏からは、「2つの発表とも重点的に重要なことをやっている、社会教育委員として活動を続けている自分たちの良さをもっとアピールして、地域の中に社会教育の理解者を増やして活動をしていくことが大切」と述べていました。

# ますほジュニアクワイア ニューイヤーコンサート 2014

新年1月13日に、富士川町のますほ文化ホールにおいて、「ますほジュニアクワイア」による恒例の「ニューイヤーコンサート」(主催:同合唱団・富士川町・富士川町教育委員会)が開催され、保護者をはじめ町や地域の多くの関係者、音楽愛好者らが来場し、子どもたちとゲストらの本格的なステージに大きな拍手が送られていました。

「ますほジュニアクワイア」は、2002(平成14)年3月に現在の富士川町ますほ文化ホール(当時は増穂町文化会館)において設立された、地域の子どもたちを中心とする合唱団です。非常に恵まれた設備環境を誇る同ホールでは、かつて「ますほチェンバークワイア」という県内外からの優れたメンバーによる合唱団が活動していました。この高い音楽的志向のもとで、合唱を通じて子どもたちによる地域に根ざした豊かな文化基盤をつくることをめざして県内で活躍する指導者を招いて設立されたのが「ますほジュニアクワイア」です。発足当時は、同ホールを中心に学校が休みとなった土曜日の子どもたちの活動の場としての役割も担っていましたが、現在は町の内外において積極的で多様な取組を行う子どもの文化組織として活躍の場を大きく広げています。県内各地の合唱祭への参加や地域の「大法師さくら祭り」「昌福寺御会式」などにおける特色ある演奏、町内のケアホームへの訪問演奏、管弦楽団演奏会といった他の音楽イベントへのゲスト出演など、年間を通してとても幅広い取組を重ねてきました。特に平成25年度は山梨県における国民文化祭開催もあり、忙しい一年を過ごしたそうです。

お母さんコーラスとのハーモニーは抜群

弦楽アンサンブル“ヴィッラ・ディ・ムシカ”とのステージ

これらの取組の中で一貫しているのが、年齢や学区を越えた幅広い子どもたちの地域の交流を大切にしていくこと、すべてのメンバーにクラシックを中核とした本格的な合唱の技術を学んでもらうこと。

こうしたことを通して、「子どもたちのより豊かな人間的成長をはかっていきたい」と音楽監督を務める依田浩氏は語ってくれました。

一年の活動の集大成となる「ニューイヤーコンサート」は、そうした「ますほジュニアクワイア」の特色がよく表れた演奏会となりました。まず前半はメンバーによるステージで、これまで取り組んできた「今年歌ったうた」を披露。次いでお母さんたちとの合唱も行われました。後半ではゲストとして招いた3つの大人の合唱団、そして首都圏で活躍する室内管弦楽団とのステージを繰り広げ、それぞれすばらしいハーモニーを奏でました。幼児から大学生までの幅広い年齢のメンバーによる歌声は、ゲスト合唱団とのステージにも心を合わせた暖かい響きを伝えてくれました。また、高学年のメンバーは難しいミサ曲にも取り組み、特にゲストの管弦楽団とのステージでは荘厳な調べが会場全体を包みました。まさに子どもたちの本格的な音楽への情熱を強く感じさせるコンサートでした。

地元の行政や学校の暖かい支援のもと、また熱意あふれる保護者会の活動に支えられて、子どもたちによる地域の文化の創造と豊かな絆づくりが見事に実を結んでいます。

## ことぶき勧学院短信　平成25年度 勧学院峡南教室展示発表会

山梨ことぶき勧学院峡南教室では、1月31日(金)～2月7日(金)に市川大門町民会館2階玄関ホールで1・2年生合同の「峡南教室展示発表会」を行いました。展示会は、実行委員が中心となって飾り付け作業や片付け作業を行うとともに、展示期間中の受付当番(作品の管理・来場者の対応)を行いました。

作品は、峡南教室の皆さんが日頃の活動の中で取り組んでいる力作ばかりおよそ100点が集められ、陶芸、俳句、書道、絵手紙、手芸、水彩画、油彩画、写真、生花、盆栽(さつき)、かぎ針編みベスト、木工品、アクセサリー等、実にバラエティーに富んだ展示会となりました。中には各方面で上演している手作りの紙芝居、糸づくりから機織りまでを自ら行って仕上げた本格的な手作りのマフラーやのれん、「塩」で作った器、紙粘土で作ったウェディングドレスを身にまとった人形、プリザーブドフラワー(生花に特殊加工を施すことによって、生花のような風合いを1～2年保つことができるもの)など、非常に手間をかけた作品もありました。

期間中の来場者は、のべ100人にのぼり、訪れた見学者からは、「みんなすばらしい作品ばかりですごいですね」という賞賛の声がたくさん寄せられていました。